

第 1 回部会の討論概要及び条例骨子への反映

【発言順】

No.	委員等	ご意見	骨子該当	備考
1	野澤氏	ヤングケアラーがケアの悩みを相談した経験の少なさ	5-(1)~(5)	ヤングケアラーの支援
2	野澤氏	ヤングケアラーの認知度の低さ	6-(1)	広報・啓発
3	野澤氏	ヤングケアラーに関する児童生徒の認知度、相談窓口の認知度を5割以上に(推進計画)。周りの大人が正しい理解をもってヤングケアラーに気付けるような周知・広報	6-(1) 6-(4)	・広報・啓発 ・体制の整備
4	野澤氏	早期発見及び相談の場の確保、ヤングケアラー支援の人材育成、研修の実施(推進計画)	5-(1)~(5) 6-(3)	・ヤングケアラーの支援 ・人材の確保
5	野澤氏	福祉部門と教育部門の連携が重要	4-(1)-② 4-(3)-④ 4-(5)	・多職種連携 ・他機関案内等 ・学校等の役割
6	加藤専門委員	ヤングケアラーの認知度が低い、正しい理解が必要。一大人として担っている。子どもだけだと大人として動いている。	2-(1) 6-(1)	・ヤングケアラーの定義 ・広報・啓発
7	加藤専門委員	ヤングケアラーは子どもらしいこと(子どもの権利)ができない。	3-(2)	子どもの権利・利益の尊重
8	加藤専門委員	子どもだったらどう考えるかという視点が大事	3-(3) 4-(3)-②	ヤングケアラー等の意向の尊重
9	加藤専門委員	大人が作る居場所よりも、子どもが元々持っている居場所に大人が入っていくスタイルの方が良い。	5-(4)	交流の場の提供、相互交流促進
10	加藤専門委員	自覚がないという前提で施策も含めて考えた方が良い。ヤングケアラーは孤立しがちで周りの目が行かない。	4-(3)-③ 6-(1)-②	・ヤングケアラーの負担等への配慮 ・潜在化を踏まえた幅広い広報等
11	加藤専門委員	本人や家族の思いをちゃんと聴くこと。	3-(3)	ヤングケアラーと家族の意向尊重
12	加藤専門委員	ヤングケアラーを助けるようなサービスを増やしていかなければいけない。	6-(5)	財政上の措置
13	加藤専門委員	ヤングケアラーの問題は子どもに何かがある訳ではなく、家庭内の色々なことが歪みとなって問題化している。	3-(4) 4-(3)-③	・多職種連携による一体的支援 ・ヤングケアラーの負担等への配慮
14	大澤専門委員	・子どもがどんなことを支援してもらえるのかという選択肢 ・定期的に入り続けられるような体制 ・時間、場所にとらわれずに子どもの思いを受け止められる体制	6-(5) 5-(1)~(3)	・財政上の措置 ・指針策定、相談・支援体制整備、人材育成
15	小川専門委員	条例ができるのならば。色々な機関と連携が取れるような仕組みが苦小牧の中でできたらいい。	5-(1)~(3)	指針策定、相談・支援体制整備、人材育成
16	緒方専門委員	苦小牧市の地域性の問題、負の連鎖を繰り返してしまうような家庭にどのようにアプローチしたらいいのか、真剣に向き合っていかなければいけないのではないかと。	4-(1)~(5) 5-(1)~(3) 6-(1)~(4)	・各々の役割等 ・指針策定、相談・支援体制整備、人材育成 ・広報等、実態把握、人材確保、体制整備

No.	委員等	ご意見	骨子該当	備考
17	千寺丸専門委員	ヤングケアラーの自覚のない子どもが徐々に見受けられる。関係機関がこれからもっと協力し合って、どんな小さなことでも見逃さない体制づくりを。	4-(1)~(5) 5-(1)~(3) 6-(1)~(4)	・各々の役割等 ・指針策定、相談・支援体制整備、人材育成 ・広報等、実態把握、人材確保、体制整備
18	田中専門委員	子どもは不用意な大人の発言で傷付くことがある。子どもは愛情ややりがいを持ってご家族の世話をしている。周囲の大人たちがどういう支援を作っていけるか。	3-(1)~(4) 4-(5) 5-(3)	・ヤングケアラー等の主体性 ・子どもの権利・利益の尊重 ・ヤングケアラーと家族の意向尊重 ・多職種連携による一体的支援 ・学校等の役割 ・人材育成
19	片山専門委員	・子どもを主語にした動きが第一。大人が全部持っていくのではなく、子どもがどこまで役割を担いたいのかという希望をしっかりと聞きながらやっていく。 ・制度の間からこぼれ落ちるところを柔軟に受け止められるような実働をイメージした条例づくりを。 ・障がい、高齢者等の専門職たちとどう連携をしていくのか、理解してもらうのか。	3-(3) 5-(1) 3-(4) 4-(3) 5-(3)	・ヤングケアラーと家族の意向尊重 ・指針策定 ・多職種連携による一体的支援 ・関係機関の役割 ・研修・情報提供
20	松村専門委員	・ヤングケアラーを皆さんに理解してもらえるような方法で周知を。 ・どこに繋いだら良いか、窓口の明確化	コンセプト 6-(1) 5-(2)	・副題の追加 ・広報・啓発 ・早めの気付き、相談・支援体制整備及び周知
21	北條委員	・どこに繋いだら良いのかという、その先が大事 ・まずは大人が子どもたちの様子に気付きをしっかりと持つことが大事。学校においても気付いたときに組織の中で相談し、どこに繋いでいくのか。	5-(2) 4-(5)	・早めの気付き、相談・支援体制整備及び周知 ・学校等の役割
22	辻川委員	大人たちがヤングケアラーとどんな会話を持つかはとても大事。ヤングケアラーへのケアのような講座の定期開催などで傾聴の力を底上げしてくような取組を。	5-(3)	人材育成